

令和5年度 第2回東大和市まち・ひと・しごと創生会議 会議要録

- 会議名** 第2回東大和市まち・ひと・しごと創生会議
- 開催日時** 令和5年11月18日（土）午前9時30分から午前11時30分まで
- 開催場所** 会議棟第6会議室
- 出席者** （委員） 牧瀬委員（座長）、松本委員（副座長）、目黒委員、佐近委員、柚木委員、高橋榮委員、大取委員、須永委員、高橋実委員、小串委員、稲葉委員、野村委員、前村委員
（事務局） 神山企画財政部長、田代総合戦略推進担当課長、神山企画政策課政策推進担当係長、深谷企画政策課総合戦略推進担当係長
- 会議の公開・非公開** 公開 傍聴者 0人
- 会議次第**
- 1 開会
 - 2 座長あいさつ
 - 3 副座長あいさつ
 - 4 内容
 - （1） 令和4年度東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン等の施策の効果検証について（意見聴取）
 - （2） （仮称）東大和市デジタル田園都市国家構想総合戦略の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン等について（意見聴取）
 - （3） まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

会議の結果及び主要な発言

（1） 令和4年度東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン等の施策の効果検証について（意見聴取）

事務局から、内容（1）について説明をした。

【要旨】

・まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン進捗状況票（令和4年度）及びブランド・プロモーションアクションプラン進捗状況票（令和4年度）について、有識者意見欄に第1回会議で発言があった委員からの意見を掲載した。内容のご確認をお願いしたい。

委員：

これまでと重複するところがあるが、感想を述べる。令和4年度の進捗状況を見ると、これまでの施策の効果が出てきているように感じるが、成果がでるまでには多少のスパンを考慮する必要がある。

子育て支援では、保育コンシェルジュや延長保育等、子ども向けの様々な取組を進めていることは素晴らしい。引き続き、2人目3人目の出生に繋がる施策の推進をお願いしたい。

学校教育では、家庭の事情に合わせた様々なニーズを踏まえた教育水準の向上に努めてもらっている。これからは教職員が教育に専念できる環境の整備が重要になる。現在、当市では学童保育、少人数指導、ティームティーチャーの配置等、教職員の負担減に向けた取組を進めていることは評価できる。しかしながら、一方で教職員が敬遠されるのは、負担が多すぎることであると思う。優秀な教職員が教育に専念できるよう、より一層の負担減のための環境整備に努めてほしい。

また、教育水準の向上には、校長の競争意識が大切だと思う。企業であれば、業界の分析に力を入れるが、学校側でも他の自治体との比較や自校の分析をする必要があるのではないかと思う。また、PTAの関わりもより一層必要であるが、PTAの在り方を見直すと記載があり、そこが気になった。

健康施策では、予防の取組等を積極的に実施していることが評価できる。しかし、市民目線では、「健康だから大丈夫」といった無関心さがある。そのため、元気ゆうゆうポイント制度を上手く利用して健康への関心を深める施策を展開したらどうかと思う。

生涯学習では、個人や団体への支援は引き続きお願いしたいが、目玉となる施策を実施できないかと思う。講演会やスポーツ大会等の大きなイベントには著名人やアスリートをゲストに呼ぶことで、参加者の増加に寄与できる。以前は、岩隈選手のイベントを誘致したが、著名人やアスリートをゲストとして招待したら良いのではないかと思う。

人口減少対策では、人口は徐々に増加傾向にあるとみている。転入増300人を引き続き目指してほしい。

今後の都市づくりについて、向原地区の開発があるが、駅前の開発等、まちづくりビジョンを作っていてほしい。

空き家対策では、旧耐震基準の家に対する助成を来年度から始めると聞いているが、良いことである。除却後の新築家屋購入者に対する税制面の優遇、住宅取得の助成支援等の住宅施策の推進により、他自治体と競争できるのではないかと思う。

多摩湖、狭山丘陵を活かした体験イベントは今後も推進してほしい。

商業活性化について、商業者に対する融資は今後も積極的にお願いしたい。創業支援についても強化してほしい。

事務局：

委員からご指摘のあったPTA見直しについては、青少年対策事業に関して、青少年対策地区委員会の構成員の課題として記載されているものであるが、具体的なPTA組織の見直しについては事務局では把握していない。

また、向原地区の開発については、第五次基本計画では人口減少抑制のためメリハリをつけた都市の形成を重要課題とし、都市マスタープランの検討において駅を中心とした拠点の形成を考えている。向原地区は、東大和市駅から近いこと、一体的な開発が期待できるが、所有地であるため市の考えだけでは進められない。市では、新しい住宅を創出したい考えがあったが、空き家につながる懸念もあり、将来的には、商業や公共施設なども推測されるが、まだ決まっていない状況である。

副座長：

多摩湖、狭山丘陵の活用について、狭山丘陵フィールドアスレチックがあるが、遊具の老朽化が課題であったが、木製遊具を新設し、来場者が増えてきている。更に、都内最長を目指したローラースライダーの設置を進めている。これには都市計画税を充てる。直近の予定としては、来月に事業概要を市議会議員へ説明する予定である。

座長：

向原地区の開発については東京都管理の問題があるが、市でできる範囲で進めてほしい。

委員：

観光・ブランド・プロモーションの地域資源を活用した観光の推進について、産業まつりが記載されていない。一方で、スイーツウォーキングについては記載がある。産業まつりは、様々な団体に関わり、今年は4万人も来場した大きなイベントであるのに何故アクションプランに掲載が無いのか。産業まつりは、商業、農業がそれぞれ実行委員会を作り、1年をかけて作り上げている。新アクションプランには追加する形で検討してほしい。

また、青少年の健全育成については、最近ではコミュニティスクールが始まっているが、一部の学区では、コミュニティスクールを理由にしてこれまで進めてきた従来のPTA活動等に対して消極的になっている。地域は学校を温かく見守っている。確かに教職員の負担減は重要であるが、地域のことを大事にして一緒に作っていききたい。学校が地域に溶け込むためにはPTAが大事であると考えている。

座長：

産業まつりについては、新アクションプランに追記することを検討しても良いのではないかと。

事務局：

現在の新アクションプランの事務局案では、うまかんべえ～祭及びスイーツウォーキングを記載しているが、産業まつりに変更することは可能であると考えているので、主管課と調整したい。

(2) (仮称) 東大和市デジタル田園都市国家構想総合戦略の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン等について (意見聴取)

事務局から、内容(2)について説明をした。

【要旨】

- ・(仮称) 東大和市デジタル田園都市国家構想の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン(案)について説明した。
- ・新ブランド・プロモーションアクションプラン(素案)について説明した。

委員：

新総合戦略アクションプランのDXに関してであるが、「D」のデジタルの活用までは進む一方で、「X」のトランスフォーメーションまでは進まずに終わってしまうことが多い。また、書かない窓口等に関する記載があるが、これまでのアナログをどうやって変えるのか。それを変えるのは職員である。DX人材は奪い合いとなり確保が難しい。「X」が目的なのに「D」で満足してはいけない。この点が、デジ田で一番心配なところである。

次にブランド・プロモーションについての質問になるが、政策集団PDGの政策提言について、実際に実現した件数はどうなっているか。提言しただけで終わっては職員のモチベーションが下がる。現行案では、政策提言したことで終わっている。

また、元気ゆうゆうポイント制度について、最近、地域包括ケアから地域共生に代わってきている。これまでの受け手の人が、地域の担い手となる考え方である。この考えは、介護の予防の場面で使える。受け手であった人が、地域に積極的に関わる社会へ転換していこう。

事務局：

政策集団PDGの事業の実現についてであるが、「変電所プロジェクトマッピング」や「サンキューカード」の実現があったが、実現されていない提案が多い。今年度は稼ぐ力をテーマとしており、事業化できるよう、政策集団PDGメンバーと共に進めている。

委員：

新総合戦略アクションプランに関しては、このとおりに推進してほしい。民間では、新規事業を進める際は、準備室を設置することが多いが、行政の場合はどうなのか。推進委員会を作る等、組織的な運営体制について伺いたい。また、デジタル人材を確保するための体制はどうなっているのか。

事務局：

デジタル人材などの確保はどの自治体でも課題である。それを補う形として当市では、委託している。東京都ではガブテックの取組を進めており、都下自治体への還元もあるので活用を検討していきたい。人材確保となると奪い合いとなり、ネームバリューが低い当市は厳しいのではないか。そのため、都の取組を活用していきたい。

また、市長が人材の育成に力を入れており、組織力の強化を図っているところである。

座長：

ある自治体では、デジタル等の専門人材を育成したが、5人中4人が辞めてしまった。理由としては、民間企業の方が高収入であり、ヘッドハンティングされてしまうため、一概にデジタル人材を育成すれば良いとも限らない。

委員：

東大和市のDXプランがどうなっているか分からないが、DXは、専門家を活用するだけでは進まない。職員の底上げが必要である。DXには改革が必要であるが、まずはデジタルを取り入れることで職員や市民の意識は変わっていく。また、情報弱者のシニア層に対する支援施策は合わせて考えておく必要がある。元気ゆうゆうポイント事業や健康ポイント事業等のシニア層が取り組みやすいものを入れることが必要である。中でもキャッシュレス決済が一番受け入れやすい。行政がいくら用意しても、使う市民の底上げをしていく（ケアしていく）必要がある。地道に進める必要がある。

また、DXの方針について記載があるが、既存の事業を掲載したにすぎず、物足りないと感じた。子育て支援施策では、既存のものを掲載していて目新しさがない。また、SNSに関しては、実施するだけでなく、市民の方の声を聞く双方向のコミュニケーションが図れるようにしてほしい。また、デジタルの力を活用し、学校に来ている子どもだけでなく、ひきこもりの児童を支援する取組を記載してほしい。

委員：

自身もデジタルに弱いと感じている。マイナポイント申請の際も操作が難しく、市職員に支援してもらった。PayPayの30%還元の際も利用していない高齢者を多く目にし、「もったいない」と感じた。高齢者の意識の底上げは、一緒に付いてあげて支援してほしい。例えば老人会で研修会を実施することや民生委員を通じて高齢者に教えてもらうなどである。こうした取組が新総合戦略アクションプランに記載があると良い。

また、新総合戦略アクションプランに記載されたデジタル技術を活用した横断的取組について、「研究します。」という表現が多いのが気になった。これらの「研究します。」という取組についても進捗状況の報告をしていただきたいと思う。どのような研究が為されてどう実現に近づいたのか、あるいは、研究の結果、課題が多く実現は困難であったとか、代替事業を進めたというような、計画期間内の研究事業の成果や経過説明を是非お願いしたい。

新ブランド・プロモーションアクションプランに関して、ロゴマークについて記載があるが、例えばインターネットで市民がダウンロードして年賀状等に使えるものなのか。

事務局：

ロゴマークについては、市公式ホームページにデータを掲載しており、ダウンロードが可能である。

委員：

ロゴマークの認知度について市民意識調査の数値を活用することであったが、市民だけに聞くということで良いのか。市外には聞かないのか。

事務局：

市民意識調査は市民を対象としている。市外の方にも聞けるツールがあれば良いとは考えている。

委員：

東大和市といえば緑と水をイメージするが、東大和市駅を通るたびに思うのが、駅前イメージが良くないということである。駅前に子ども向けの施設がある中で、近くに喫煙所がありイメージが良くない。花壇や子どもが遊べるスペースがあっても良いのではないかと思う。

また、清原地区に来年度商業施設ができる予定であるが、東大和市にはスーパーが多く充実している。総合スーパーは苦戦しているが、子育て施策を市に推進してもらい、スーパーとWinWinの関係になれば良いと考えている。

また、都立東大和南公園には遊具が無くなってしまった。駅から近く多くの方が訪れている公園であるので、今後の活性化に期待したい。

また、DXについて、自身も戸籍謄本等をコンビニで取得できて恩恵を感じた。引き続きデジタル化を進めてほしい。

また、両アクションプランに言えることであるが、現状値と5年後の目標が同数値のものが目立つ。オンライン英会話が年500分とあるが、月換算だと短いと感じる。

座長：

喫煙所について撤去できるのか。

副座長：

東大和市駅前の喫煙所は、分煙推進のため都の補助金を活用して市が設置したものである。こうした理由から今すぐ移動することは困難である。一方で、駅前の花植えについてはボランティアの協力で維持管理しているが、今後も一層推進していきたい。

委員：

保育士及び看護師の人材不足について、国の施策としても看護師、介護士及び保育士の人材不足に対して力を入れて雇用を進めている。いくつかの市とタイアップして、キャリアチェンジの方を対象とした面接会や現地見学等の機会を設けている。併せて、福祉関連のセミナー等もハローワークとして実施している。今後、東大和市についても、福祉関連の人材不足解消に向け、ハローワークとタイアップによる取組をご検討いただければと思う。

委員：

新総合戦略アクションプランに記載のある創業支援について、創業者支援事業による創業者数を目標値として設定しているが、創業者数は何を持って把握しているのか。開業届出数ということであれば、極端な話、事業実態がなくとも誰でも届出をすることができてしまうので、別の視点で目標値の設定を検討しても良いのではないかと。例えば、開業届出数もさることながら、開業後に一定年数以上事業継続をしている事業者数にするなども一案ではないかと。また、東大和市が多摩地域の他の市町村に比して積極的に創業支援に力を入れておられるということは前提であるが、昨今の働き方や創業に対する考え方の多様化に応じた創業支援、例えば、女性創業であるとか、セカンドキャリア起業とか、そうした属性別に特化した創業支援も必要になってくるのではないかと。また、創業機運の醸成という観点では、創業ニーズの掘り起こし手法について課題を抱えている自治体が多い印象を受けており、東大和市においても同様の課題があるのではと思料している。例えば、子ども（小学3年生以上）や学生に対して、起業や経営について簡単に体感してもらえるようなイベントを催してみるのはいかがでしょうか。また、起業は起業でも、いわゆる社会課題解決型の起業を促進するような取組を強化するなどしたら良いのではないかと。思う。

次に、ブランド・プロモーションに関して、市民に対する意識調査だけではなく、市役所職員が有する東大和市の魅力や共有・発信するような研修を実施しているのは大変興味深い取組であると感じる。ただし、市民と市職員が有する東大和市の魅力やブランドイメージには、ギャップがあるかも知れないので、市民と市職員の東大和市に対するイメージなどを見える化して、議論を交わせるような場を創出しても良いのではないかと。思う。

委員：

子育てについて、人材の確保が当行でも課題である。小学校に入るタイミングや小学3年生になるタイミング（学童保育所へ入所）で辞めてしまう社員が多い。東大和市の話でもあると思っている。是非そういったところの対策をしてほしい。延長保育をすると残業代よりも高いのはどうかと思う。ニーズを見て対策してほしい。

また、DXについては、誰一人取り残されないとする考えが大切である。お客様の中にはATMを使いたがらない高齢者もいる。介護の相談会を2部制にして、本編の後にDXについて説明する機会を設けるような工夫も必要である。

委員：

駅周辺の喫煙の話もあるが、駅を降りた人の印象は大事である。煙の印象はマイナスとなってしまう。市役所についても、市役所内が暗い、雑然としている印象がある。今後人口が増えることはなく、いかにイメージアップしていくかが重要である。多摩湖駅伝は昔からやっているが、日本初の女子フルマラソン大会の開催地を駅前でアピールする等イメージアップを図られたら良いと思う。青梅市は青梅マラソンで認知度が向上している。資源を生かしてもっとアピールをすると良い。

委員：

子育て支援について、副座長から狭山緑地のフィールドアスレチックの設置について言及があったが、市北部には遊具のある公園や児童館がないことから、放課後の子どもの居場所がない。実際のところ、神社で遊ぶと怒られてしまうので、子ども達は車が通る道路で遊んでいる。市北部の整備の検討をお願いしたい。

観光事業については、産業まつりや福祉祭等は楽しかったが、市に目的をもって外から来訪してもらえるような場所やイベントがあると定住をしてもらえると思う。

また、前回の会議で市に複合施設を新設することは困難であるとの話があったが、これしかないと思う。子育て世代は週末市外に行ってお金を使って帰ってくる。東大和市が立ち寄り地でなく目的地になれば、就業も含めて活性化するのではないかと思う。

また、市がニュースに取り上げられるような取組があれば良いと思う。給食費無償化が進む中、当市では値上げとの話を聞き、そういう点が残念である。東大和市のここがすごいというニュースがあれば、転入に期待できるのではないかと思う。

P T A組織のあり方について話題になっているが、P T Aを廃止する学校も出てきている。理由は、共働き世帯の増加がある。時間が無い中、過去からずっと同じ体制できているこのボランティアへの成り手は少ない。オンライン会議にする等、真に必要な時間を確保できるようP T A連合会として考えているところである。

(3) まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

委員：

「東京ゆったり日和 東大和」というブランドイメージに表れているように、個人的には、東大和市中で働いていることに関しては居心地の良さを感じている。交通の便や駅前をはじめとした商業施設等の不足感などの意見は多々あると思われるが、それらを超えるような魅力があると感じている。しかしながら、それを何かしら言葉で発信しようと思うと、難儀してしまう自分も確か。微力ながら、東大和市の魅力をどのように発信していけば良いかを考えていきたいと思っている。

5 その他

会議の日程（予定）について

	開催日時	場所
第3回	令和6年2月17日（土）午後2時30分～4時30分	会議棟第6会議室

6 閉会